

令和元年6月8日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02526

研究課題名(和文)18世紀フランス文学における「専制批判」の系譜：モンテスキューとディドロを中心に

研究課題名(英文) Criticism of Despotism in the Eighteenth Century French Literature : Montesquieu and Diderot

研究代表者

田口 卓臣 (TAGUCHI, Takumi)

宇都宮大学・国際学部・准教授

研究者番号：60515881

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18世紀フランスの先鋭的な啓蒙思想家(モンテスキューとディドロ)の小説の分析を通して、次の2点を明らかにした。すなわち、(1)彼らはそれぞれの文学作品において、アンシャン・レジーム期の王権を「専制」の典型とみなし、その諸特徴を析出していること、(2)彼らはそれを通じて、政治・経済・社会に解体をもたらす「専制」の諸原理について究明していること、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、主権概念から統治権力を基礎づけようとした17世紀以来の主権国家理論の正統的な系譜(ボダン、ホッブズ、ロック、ルソー等)とは異なる共同体思想の系譜(モンテスキュー、ディドロ)が、18世紀フランス文学において明確に継承されていたことを示すものである。

本研究は、思想、文学、政治の諸ジャンルを越境する観点に基づいて、18世紀フランスの王権に一貫して潜在していた「専制」への傾向に対する抑止、緩和、抵抗を模索した文学作品の方法に光を当てることで、いわゆる政治学史の通説には収まりきらない、特異な共同体思想の脈脈を掘り起こす点で、意義を持つ。

研究成果の概要(英文)：The present study aimed to explore novels of Montesquieu and Diderot, the most radical French philosophers in the eighteenth century. In the study, two points were clarified : (1) these two philosophers regarded the monarchy of Ancient Regime as a typical despotism, and analyzed its characteristics ; (2) by doing so, they provided us with a vision about the basis of despotism which would destroy government, economy and society.

研究分野：フランス文学

キーワード：専制批判 近代的統治 フィクション モラリスト文学 ポルトレ 政治的箴言 摂政時代 ルイ14世時代

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

この半世紀近くの政治思想史研究において、西洋近代初期に形成された主権国家理論の系譜を跡付けるというアプローチは、一つの不動の前提であり続けてきた。しかし、主権概念や社会契約説といった近代国家の前提条件を批判的に再検証することは、理論的にも歴史的にも喫緊の課題であり続けてきたし、主権国家体制の内側で様々な亀裂が顕在化しつつある今日においては、この課題の重要性はますます高まっている。この問題意識に立つ時、18世紀フランスにおいて、17世紀以来の主権理論の系譜とも、そこに合流する社会契約説の系譜とも異なる思想的脈が存在していたことは、特段の注意を要すると考えられる。本研究は、その思想的脈を「専制批判の系譜」と名付け、その系譜がモンテスキューとディドロの文学作品群によって最良の形で体现されている、との見込みを立てた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、18世紀フランスにおいて「専制批判」を軸に据えながら、当時の統治体制に対する批判的検証を試みた啓蒙思想家たちの「文学的想像力」の射程を明らかにすることであった。

具体的に言えば、本研究は、主権概念から統治権力を基礎づけようとした17世紀以来の主権国家理論の正統的な系譜（ボダン、ホブズ、ロック、ルソー等）とは異なる共同体思想の系譜（モンテスキュー、ディドロ）が18世紀フランス文学において明確に継承されていたことを実証しようとした。本研究は、思想、文学、政治の諸ジャンルを越境する観点に基づいて、18世紀フランスの王権に一貫して潜在していた「専制」への傾向に対する抑止、緩和、抵抗を模索した文学作品の方法に光を当てることで、いわゆる政治学史の通説には収まりきらない特異な共同体思想の脈を掘り起こすことを目指したのである。

3. 研究の方法

本研究は、いわゆる「学説内容」の分析に依拠した政治思想史の研究手法とは一線を画し、先行の諸学説に批判的に介入する18世紀フランスの啓蒙思想家たちの「文学的方法」に注目した。18世紀フランスの文学作品は、フィクションの特性（書簡、風刺、寓意、断章、対話、修辞技法など）を存分に駆使することで、どのように統治権力のシステムを分析かつ相対化し、どのようにオルタナティブな政治制度の構想を模索するか、という問題意識を表出しているのである。本研究は、18世紀フランスの啓蒙思想家たちにおける「文学的形式を介した政治思想の表現」という視点を立て、そこから当時の文学作品における国家論や専制批判の思想を抽出することを試みたものである。

より具体的には、とりわけ次の2点に焦点を絞り、考察を進めることとした。（1）18世紀フランスの啓蒙思想家たち（特にモンテスキューとディドロ）は、みずからの文学作品群において、ルイ14世時代末期、摂政時代、ルイ15世時代など、それぞれの時代に固有の「専制」の論理を抽出した。（2）モンテスキューとディドロはまた、二者二様の文学的技法を駆使することで、「専制」を相対化するとともに、「専制」とは異なる諸々の政治制度の可能性を模索した、という2点である。

上記の2点を明らかにできれば、アンシャン・レジーム期に一貫して流れる強固な専制権力の下で、どのような思想的経緯を経て、主権概念や社会契約説が唱えられたのかという政治思想史上の文脈に関しても、これまでの研究史とは異なる視角から光を当てることができる、と予測された。

4. 研究成果

残念ながら、本研究の期間内に挙げられた成果は決して多くない。ただし、後述するように、当初の研究計画で想定していた2冊の図書が、2019年度には刊行される見込みである。この意味で、予定からは遅れてしまったものの、一定の成果は挙げていると言える。

まず、ディドロとルソーにおける「公衆」概念の違いに注目し、「公衆」に潜在する統治権力や、その背後に控える「専制」への傾向について論じたうえで、ルソーもディドロも「散歩」の表象を通して、「公衆＝権力」への抵抗の在り方を模索していることを立証した（学会発表）。この発表は論文として書き改められ、フランスのクラシック・ガルニエ社から刊行される論文集に掲載される予定である（Takumi Taguchi, *Diderot et Rousseau : la promenade, le public et la postérité*, in *La Promenade des Lumières : rituels et sociabilités*, dirigée par Jacques Berchtold et Catriona Seth, Classiques Garnier, 2019 : (à paraître).)

次に、上記の研究成果に対する副次的な成果として、専制権力下での「自律」を追求した啓蒙思想家たちの姿勢について紹介した短文（雑誌論文）。洋の東西を超えて18世紀の書き手たち（ディドロと上田秋成）の小説に見られたフィクションの詩学に関する哲学的原理を抽出した論考（図書）がある。

最後に、モンテスキューの書簡小説『ペルシア人の手紙』における「専制批判」の諸相を考察した研究発表がある（学会発表）。この発表は、『ペルシア人の手紙』の全訳、解説、注釈などの作業を終えた段階でなされたものであり、その成果は、2019年度内に書籍として刊行される予定である（モンテスキュー『ペルシア人の手紙』田口卓臣訳＋解説、翻訳、講談社学術文庫、2019年刊行予定）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

田口卓臣、「研究トピックス 自律をめぐる啓蒙思想家たちの永遠の問い」、単著、『蛭雪時代』2018年4月臨時増刊号「全国大学 学部・学科案内」、旺文社、査読無、p.473.

〔学会発表〕(計 2 件)

田口卓臣、「モンテスキュー『ペルシア人の手紙』、うごめく複雑な機械」：中央大学人文科学研究所主催ワークショップ、中央大学多摩キャンパス 2 号館、2019 年 3 月 9 日(土)。
Takumi Taguchi, “Diderot et Rousseau : la promenade, le public et la postérité” : Promenade et rituels sociaux , le 14 octobre 2016 (vendredi). Hotel Dupanloup, Orléans. POLEN-CLARESS. (「ディドロとルソー：散歩、公衆、後世」：国際研究ワークショップ「散歩と社会的儀礼」、オルレアン大学人文学部、デュパンルー研究センター、2016 年 10 月 14 日(金))

〔図書〕(計 1 件)

Takumi Taguchi, “La préface et/ou la fiction : Akinari Ueda et Diderot”, in *Prologues et cultures : Médiations littéraires et artistiques*, sous la direction de Françoise Morcillo, Editions Paradigme, 2017, pp.393-405.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。